

令和 3 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	28	学校名	静岡県立富士宮北高等学校	校長名	中村 真二
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 「服装・頭髪指導がしっかりしている」 「マナーがよい」保護者評価が各90%以上 登校指導40日、昼巡視20日を通して挨拶、声掛けの励行 交通事故10件以内 交通安全教室4月に実施 ケイタイマナー教室1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価がそれぞれ95%(+1%), 88%(-1%) 登校指導6日(+6日)、昼巡視30日(+3日)実施し、挨拶の励行、黙食の推進に努めた。 交通事故10件(-6件) 交通安全教室4月実施 ケイタイマナー教室1回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 7年間連続で肯定的な評価を達成している。指導を受ける生徒も減少している。しかし、教員によって指導に差があるようなので、統一した指導の達成のために工夫をしていく。教員評価76%(-12%) 4月に交通安全教室を実施したことで交通事故が減少した見方もできる。
		<ul style="list-style-type: none"> 「教職員は、悩みなどの相談ののってくれる」生徒評価90%以上 特別支援が必要な生徒への適切な配慮と支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の90%は達成できなかったが、80%以上の生徒から評価は得られた。スクールカウンセラーについては、多くの生徒が有効に活用した。 特別支援の必要な生徒のケース会議を行い、適切な支援をすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談や特別支援についての職員研修を継続して行っていく。 特別支援については、分校との連携を図りながら進めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 行事（創立記念行事・式典等）を通じた校訓・校歌の理解・浸透 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策をした上でおこなった。校訓の理解・浸透まではできていないが、コロナ禍の制約の中で校外行事を実施し、クラスの親睦が深められた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度までは創立記念行事として遠足を充てていたが、主旨の異なる行事であるため、来年度からは分けて行う。
イ	自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、思考力・表現力、探究意欲を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> 「分かりやすく学力が付く授業」85%以上 「自らの考えを表現できる生徒」60%以上 一日平均普通科90分以上、商業科60分以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「分かりやすく学力が付く授業」生徒88%・保護者87% 「自らの考えを表現できる生徒」57% 一日平均（テスト前平日5日間） 1年普通112分、商業93分 2年普通131分、商業99分 3年普通141分、商業113分 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の制約の中でどのように「分かりやすく学力が付く授業」や「自らの考えを表現できる生徒」の実績を上げるか授業改善の継続が必要 一日平均学習時間の調査方法に関して工夫が必要（テスト期間外の学習時間入力が定着していない）
		<ul style="list-style-type: none"> 「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価90%以上 授業公開週間を年2回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的授業」について生徒・保護者ともに肯定率が90%に近く評価が高いが、教員の評価は79%と昨年度から10%低下 授業研修週間を1, 2学期1回ずつ実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の評価低下については、生徒・保護者の評価が高いことから、教員の意識が向上した結果とも考えられる。今後意識と実践が結びつくよう、さらに働きかけをする必要がある。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業改善のためのアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業改善のためのアンケート1, 2学期1回ずつ実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観率が2学期に激減するため、他の研修と結びつけながら行う等工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育に関する探究プロセスの実施 ・新課程での週時程実施に向けた内容の決定 ・実践校への視察および検討委員会5回以上を実施し、職員会議報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間検討委員会(オンリーワン・ハイスクール委員会)を年9回開催し、検討内容を職員会議に報告した。 ・防災教育に関わる部分も含め、新課程での週時程実施に向けた内容を決定した。 ・実践事例は研究したが、コロナ禍のため視察は行わなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンリーワン・ハイスクール事業の実施に伴い、コンソーシアム委員の意見を伺いながら進めることができた。 ・環境、国際、経済、観光、防災、共生共育等、様々な分野の取組を実践することができた。 ・今後は、3年間を見据えた計画を検討する必要がある。
ウ	<p>学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的な商業活動20名以上 ・3年の課題研究発表会の実施 ・商業科2級以上取得95%以上、1級3種目以上取得30%以上 ・「授業等で実践的な取組ができた」と答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的活動は、コロナにより実施できなかった。 ・3年課題研究発表会1月21日実施 ・商業科2級以上取得(令和元年入学生71/74(95.9%))3種目以上取得(令和元年入学生23/74(31.1%)) ・学校教育活動を通して、社会で活躍できる力が身につけている肯定的評価79% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会を実施することができた。また、検定試験に関しては、補講等により概ね目標を達成することができた。 ・コロナ関連で実学チャレンジフェスタ等の実践的活動は実施されず、活動できなかった。来年度以降、コロナを見据えた取組を検討する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材による講演会の実施 ・商業科体験入学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材による知的財産権講座を実施した。 ・商業科体験入学会はコロナにより実施ができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、商業科体験入学会は実施できなかった。来年度以降、コロナを見据えた取組を検討する必要がある。
エ	<p>自己理解・目的意識を高め、系統的な指導を通して個に応じた進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試偏差値50以上が1・2年で20人以上、3年で10人以上 ・「北高は生徒一人一人に応じた、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価90%以上、保護者肯定評価80%以上 ・「進路決定先満足度」3年生肯定評価95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月模試で2年生は11名が偏差値50超であった。3年生は10月模試では10名に満たなかったが、11月模試では英数国で10人以上いた。 ・生徒・保護者ともに83%で、生徒の目標は達成できなかったが、保護者目標は達成できた。 ・「進路決定先満足度」生徒93%、保護者96%で概ね達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚(進路実現に向けた心構えを作る進路がダブスの実施、定期的な進路情報提供による危機感) ・家庭学習定着への取り組み ・補講参加者の学習の質の向上 ・模試に対応した進学補講を教科ごとに系統立てて実施していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を向上させるため、学期に2回以上自らの行動を記録させ、学期に1回程度内容を振り返ることで、その後の行 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年部では定期的に実施できた。3年部はこれまであまりクラッシーを使用してこなかったが、調査書は聞き取り等工夫して記入した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などで、事前の目標・目的の共有としても活用する必要がある。 ・生徒の行動記録の確認は担任チェックが必要か。 ・ポートフォリオはGoogle

		動が主体的で意識的になること			かClassiのどちらかで行う必要がある。 ・キャリアパスポートの研究が必要。 ・調査書への行動記録が必要な受験も少数だがあるので、今後も定期的な記録が生徒には必要。
		・新しい入試に対する情報を収集し、その結果を生徒に伝える機会を学期1回程度持つことで、生徒と教員の情報共有ができること	・教員の情報不足が感じられる。情報を持っていても、生徒に還元しきれていない。 ・7月に業者を入れて1・2年生合同の進路ガイダンス、10月に教員向けの1・2年生7月模試分析会を実施できた。 ・3年保護者対象進路別説明会は進路別に実施した。進学についてはコロナ禍で当初より遅れて実施した。参加率は学年全体で85%程度だった。	B	・模試分析、入試研究会等で研修を深める必要がある。また、生徒に実感させるための具体例も示す必要がある。 ・目的が明確で、かつ適切なタイミングでのガイダンスの実施。
オ	多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。	・「充実した部活動により人間性が高められた」と答える生徒85%以上 ・ボランティア活動に参加50%以上 ・生徒会を中心としたボランティアの参加4回以上	・「部活動に参加し、生徒の人間性が高められた」生徒評価86%(+1%) ・「ボランティア活動に参加した」生徒評価40%(+3%) ・生徒会を中心としたボランティアの参加5回実施 ・コロナ禍で制約がある中、分校との交流や市役所でのボランティア活動等、例年にはない活動にも積極的に取り組んだ。	A	・部活動により人間性が高められた」は大多数の部活動で成果が上がっている。 ・生徒の主体性や社会性を育てるボランティア活動をさらに進めたい。
		・朝読書を時間通り始めているクラス100% ・奨励図書の子供公募、ビブリオバトル活動の継続 ・図書貸出各クラス100冊以上	・朝読書はほぼ時間通り始まっており、取り組みも落ち着いており良好。 ・ビブリオバトルはHRごとに多少の差はあるが取り組みは良好である。 ・奨励図書の子供公募は実施ができなかった。 ・図書貸出100冊以上2クラス	B	・朝読書は時差登校や健康観察等の関係で時間が短くなったが、次年度は10分間を確保したい。 ・ビブリオバトルは、学年チャンプ本を選出する、県の大大会への参加等、さらに内容を充実させたい。 ・広く生徒からの奨励図書を募りたい。 ・国語科、社会科等、授業との連携を工夫したい。
		・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価70%以上	・昨年度32%から42%に評価は上がったが、目標である70%まで達成することはできなかった。	C	・職員・生徒減に伴う、清掃場所の精選を行う。機能の充実した清掃用品の導入を検討する。
		・分校との交流30回以上(うち生徒会・委員会・部等での共同活動25回以上)	・コロナ感染拡大の影響で、多くの共同活動が中止となった。しかし、富士宮分校10周年記念集団演技を本校生が観覧できたこと	B	・コロナの影響で実際に対面できない中でも、交流が進められる方法を模索したい。

様式第3号

			など、交流の深まる活動もあった。		
カ	外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。	・教職員向け校内研修2回以上 ・生徒の地域防災参加60%以上	・マンホールトイレ設営研修1回実施 ・コロナ感染状況悪化のため、未実施の地域や高校生が参加対象でない地域がほとんどであり、6.5%の参加率に留まった。	B	・校内での防災講座等も含め、コロナ感染悪化に伴う行事等の見直しが必要である。
		・一日体験入学アンケート、満足度70%以上 ・新しい生活様式に適した体験入学および公開授業の実施	・体験入学時のアンケートはコロナ感染状況防止に配慮し、回収を避けるため未実施。 ・第1回309名(10/2) ・第2回237名(10/23) ・内容(授業見学、学校説明会、部活動見学)	B	・体験入学時のアンケートについては、取り方や内容を含めて、来年度実施したい。 ・来年度も引き続き、秋の体験入学と公開授業の実施を行う。(商業科の体験ができる工夫を取り入れる)
		・効果的な広報資料の作成と中学校訪問年5回の実施による志願者の確保	・学校案内を見直し、学校紹介ビデオを充実させ、学校説明会の内容もアピールポイントがわかりやすくなるよう組み替えた。 ・中学校訪問を年4回実施し、得られた情報を分析して、志願者確保に役立てた。	A	・学校案内と学校紹介ビデオは中学生にとってとても親しみやすくわかりやすいものになった。 ・中学校訪問は、年4回でよい。 ・商業科の体験授業を実施できるよう工夫する。
		・月2回以上のホームページの更新 ・PTA、学校後援会及び同窓会との連携強化	・月2回以上のホームページの更新達成。北高生の活躍や取り組みを社会に伝えることができた。 ・コロナ感染状況悪化のため、多くの行事が中止になり、PTAとの連携を強化することはできなかったが、可能な範囲で最大限の活動を行うことができた。	A	・引き続き、月2回以上ホームページを更新する。 ・状況に応じたPTA活動の見直しが必要。
キ	職員の専門性・資質の向上、適正なサービス、適切な教育環境の整備を図り、安全で信頼される学校づくりを推進する。	・校内研修参加95%以上、満足度80%以上 ・事例研究、グループ研修を年3回以上実施 ・校外研修を報告することで情報共有	・校内研修参加率は各研修ともほぼ95%程度。満足度は各研修とも80%以上であり、全体としてはほぼ90% ・チーム研修6回実施。議事録を職員室に掲示して情報共有を図った。 ・チーム研修の内容を全体研修につなげることができた。	A	・探究活動、観点別評価、ジェンダー等職員から要望のあった研修の実施を目指し、参加率及び満足度を維持する。 ・チーム研修で研修した内容を全体で実施できた。 ・チーム研修のさらなる充実を図り、情報共有を行うことで教員全体に波及させたい。
		・コンプライアンス委員会を月1回は開催して職場環境や教職員の勤務状況を把握し適切に対応 ・コンプライアンス通信を配布し注意喚起 ・若手教職員の悩みを	・コンプライアンス研修を毎月実施した。コンプライアンス委員会を年3回実施した。 ・コンプライアンス通信を随時配布し、注意喚起した。 ・自己点検表を年3回実施した。 ・チーム研修を活発に行い、先輩教員が若手教員の相談に乗った。	B	・コンプライアンス研修や自己点検表によって、コンプライアンス意識が高まった。セクハラや体罰等は皆無だった。 ・現在は比較的、職場の中に何でも言える、何でも聞ける雰囲気があり、若手職

		聞けるメンターの設置			員の悩みを吸い上げることができている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教室への消毒設置 100% ・マスク着用 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒設置、マスク着用 100%を共に達成することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も、感染症対策について継続して指導していく。必要に応じて、よりよい環境整備も行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項を 0 件 ・光熱水費の前年比増 10%以内 (空調稼働分の節約) ・学校運営に係る予算について前年比 10% 節約 ・施設設備安全点検月 1 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項 0 件 ・前年比電気代 9%増、水道代 3% 減であったが、ガス代は単価値上げもあり 16%増となった。 ・運営予算節約やその他予算により、配信システム等の ICT 環境を整備 ・月 1 回以上の点検により、施設設備の安全管理を実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適正なサービス・事務処理を行い、監査・会計物品検査における指摘事項はなかった。 ・光熱水費を含む運営予算節約やその他予算措置により、校内に配信システム、スクリーン等の ICT 環境を整備した。 ・安全点検により、施設設備修繕や樹木管理を実施。今後も安全で信頼される学校づくりを推進する。
ク	教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果が県平均より良好 ・職員会議は協議事項の意見交換を主として、連絡事項は分かりやすい資料の配布で簡略化 ・業務のデータを活用した効率的な業務の実施、次の担当者のために業務のマニュアル化 ・定期テスト監督の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果は県平均に届かなかったが、昨年度よりは向上した。 ・職員会議や運営委員会の資料を事前に配付し、情報交換や意見調整をして、会議時間を短縮した。 ・定期テスト監督の平準化は達成できた。 ・働き方改革や業務改善について各課から提案してもらい、課題を共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間を短縮することができた。 ・勤務時間の短縮はなかなか難しいが、職員の意識は向上した。 ・業務のマニュアル化や、業務の精選及び改善を更に進める必要がある。